

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



JAMCA ニュース

No.98

2018 年 7 月 1 日

発行
協会事務局
編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町 31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

高等教育の現況と AI (人工知能) について

東京工科自動車大学校 学園長
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

山本 眞



	1990年	2017年(18歳人口ピークは1992年)
18歳人口	約200万人	約120万人 (40%減)
大学数	507校	780校 (54%増)
大学進学率	24.6%	52.6% (約2倍)
学位名称数	29種類	700種類以上(約24倍)
私大定員割れ		39.4% (310校)

これはリクルート・カレッジマネジメント 209 号 (2018 年 3 月 1 日発行) の記事です。

30 年弱の間に、18 歳人口が 40% 減り、進学率が 2 倍になり、入学者は 28% 増えたのですが、大学数は 54% も増え、定員割れ大学が 310 校 (40%) も出ているという驚異的な記事です。

高校生は受験があるから勉強するので、学生を選べない定員割れ大学では学力が低下するのは当然です。

以来、教育の質保証や学修成果の公開が強く求められ、どの学部で何をどこまで学んできたのか、外から分かるような「見える化」が求められています。

すべての大学に税金を投入すべきか、社会に「説明責任」を果たすべきという議論や、私学助成の配分の見直しも出ているようです。

一方、Singularity という言葉で、AI (人工知能) が人間の知能を超える時が来て、ホワイトカラーの職業の 40 ~ 50% が AI に奪われると言われています。今後 20 年間とい

う短い期間で急激に仕事なくなるという予測です。

先日「AI vs 教科書が読めない子供たち」(発行: 東洋経済) を著した新井紀子理学博士の講演を聞く機会があり、AI 時代の教育の課題を伺いましたので報告します。

新井博士は一橋大学法学部に入学、数学の面白さに目覚め、イリノイ大学数学科卒業、同大学院数学科課程修了で、理学博士 (東京工業大学) 取得後、国立情報学研究所教授、「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトや RST (Reading Skill Test) を主導する異色の経歴。

「東ロボくん」は 7 年で偏差値 57.1 まで成長して、全国 756 校ある大学の 70% に当たる 535 校の大学に 80% 以上の確率で合格できる実力になったそうです。(東大は不合格)。

AI がそこまで来たのだから、中高生は AI 技術ではできない能力こそ修得すべきで、高度な読解力と常識、つまり言葉の「意味」を正確に理解して、「一を聞いて十を知る」応用力、

柔軟性が必要と考え、読解力テストを考案したと言われました。

社会は大きく変貌しています。専門学校にも今年から経常費助成が出ることになり、同時に実践的専門知識・技術に加え、思考力・判断力・表現力を育てる職業教育が求められてきました。実習中心の「できる教育」に、「教科書を読む力をつける」教育による工学的理解が補充されてきたように思います。

専門学校にとって、社会の信頼を高める「教育の質保証」は重要な課題ですが、実習中心教育を突然大学基準に転換することはできません。実践的技術力育成のポリシーを堅持しながら、これまでの実績を基盤に問題点を見つけ、一步一步改善していく以外に道はないと思います。

企業では「PDCA を回す」とよく言います。学校もフィードバック制御のように、学修成果を常時 Check し、弛まず Plan との差を縮めるルーティン化が必要なのではないでしょうか。

CONTENTS

- 2 面 外国人留学生の質の向上に向けて
- 3 面 クルマ大好き! 活躍!! 女子! 卒業生
- 4 面・5 面 輝く一級整備士
- 6 面・7 面 協会トピックス・地区通信
- 8 面 私の教材活用・お知らせ・編集後記